

月後). リンパ節切除と化学療法施行 (DAV-Feron). 1コース終了時の治療効果は PR. 11ヶ月後肺転移, 腸閉塞の増悪により癌死. 結語: 症例は膣前壁から尿道にかけ腫瘍がひろがっており, 内診が診断の契機となった. 原発巣が膣, 尿道の悪性黒色腫は稀であり, 予後不良な疾患である. 後療法はその特性を考慮し検討する必要がある.

## 〈臨床的研究〉

座長 山本 巧 (群馬大学)

### 10. 年齢階層別, PSA 値別陽性的中率 (PPV) よりみた人間ドッグと集団検診の比較検討

河野 真意, 上井 崇智, 熊坂 文成  
小倉 治之, 黒沢 功 (黒沢病院)  
島田 和子, 松本 房江, 石井 秀和  
(同 高崎健康管理センター)  
加瀬 嘉明, 山中 英壽  
(同 予防医学研究所)  
山本 巧, 伊藤 一人, 鈴木 和浩  
(群馬大院・医・泌尿器病態学)

我々は群馬県前立腺がん集団検診集団より作成した年齢階層別 PSA 値別 PPV 表をもとに, 高崎健康管理センターの前立腺がん発見率について集団検診と比較し検討を加えた. 結果, 高崎健康管理センターの前立腺がん発見率は低かったが, その原因は生検施行率の低さにあると思われた.

### 11. 多数カ所生検で発見された前立腺癌の前立腺領域別分布

武智 浩之, 伊藤 一人, 山本 巧  
大井 勝, 黒川 公平, 鈴木 和浩  
(群馬大院・医・泌尿器病態学)

【目的】 前立腺癌の領域別分布を調査するため, 前立腺辺縁領域を内側・外側・最外側後面のそれぞれ尖部側・底部側, 最外側前面尖部, 移行領域を前面・後面の9ヶ所に分けて生検陽性率の比較検討を行った. 【対象】 経直腸的超音波ガイド下に年齢・前立腺体積に合わせた多数カ所生検 (8~20ヶ所) を行った, PSA 値が4.1-10.0ng/ml の335例. 総計4,298ヶ所の生検を実施し, 領域別に癌の陽性率を算出した. 【結果】 335症例中142例 (42%) に前立腺癌が発見された. 辺縁領域へは3,312ヶ所の生検を行い, 262ヶ所 (7.9%) から癌が発見され, 移行領域へは986ヶ所生検を行い, 70ヶ所 (7.1%) より癌が発見された. 142例の症例中20例 (14.1%) は, 移行領域のみから前立腺癌が発見された. 特に生検陽性率

が高かったのは辺縁領域最外側後面の尖部側, 同底部側, 移行領域前面であった. 【結語】 前立腺の辺縁領域, 移行領域の生検ベースでみた癌陽性率には差がなく, 移行領域も含めた前立腺への生検法の確立が重要と考えられた.

### 12. 表在性膀胱癌の再発に対する予後因子の検討

新井 誠二, 悦永 徹, 中野 勝也  
中田 誠司, 高橋 薄朋 (足利赤十字病院)

【目的】 表在性膀胱癌は, 初回治療後に多くの例で再発を認める. 今回, 表在性膀胱癌の予後因子を検討した. 【方法】 対象は, 1995年1月~2004年9月の間にTUR-Btを行なった表在性膀胱癌151例 (CIS, 全摘施行例, 不完全切除は除外) である. これらについて, 深達度, 異型度, 大きさ, 腫瘍数, 術後治療と予後との関係を検討した. 【結果と考察】 平均観察期間は約19ヶ月で, 約35%に再発を認めた. 再発までの期間は, 平均11.2ヶ月, 中央値7.6ヶ月であった. コックス回帰分析を用いた多変量解析から, 予後に関係があったのは, 腫瘍数, 術後治療であった. 多発する腫瘍では, 再発のリスクが約2.4倍になり, 術後治療を行なった場合には, 再発のリスクが0.4倍になるという結果であった. また, 異型度で予後に差がでなかったのは, 初期治療として全摘を施行された例が除外された為と考えられた.

### 13. 群馬県立がんセンターにおける陰茎癌の臨床的検討

森田 崇弘, 松井 博, 清水 信明  
(群馬県立がんセンター)

【目的】 群馬県立がんセンターを受診した陰茎癌患者の治療成績を検討することである. 【対象】 昭和48年から平成16年に当院を受診した陰茎癌患者25名. 年齢は37歳から90歳で平均70.4歳. 臨床病期は1987年のTNM分類に準じ, stage Iが9名, stage IIが11名, stage IIIが0名, stage IVが5名. 【結果】 主訴は陰茎腫瘤で25名, 排尿困難3名, 尿失禁1名. 腫瘤の好発部位は亀頭から冠状溝23名, 陰茎基部2名. 包茎ありが14名, 包茎なしが11名だった. 陰茎癌の5年生存率はstage Iが75%, stage IIが72.9%, stage IVが0%であった. stage IVについて1年生存率は20%であった. 【結語】 当院における陰茎癌の治療成績を検討し, 文献的にみても同等の結果であった.